



一月(大) 睦月 斗宿

(一月六日小寒の節より
月命丁丑六白金星の月
暗剣殺西北方)

旧十一月小
十二月大

日	曜日	干支	九星	行事	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	木	ひのとうし	五黄	回元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会、修正会、 初寅、小つち、三隣亡	初寅、初夢、書初め、皇居一般参賀、 福岡宮崎宮玉せせり、初卯、不成就日	官庁御用始め、 初水天宮、初巳	十一	先負のぞく	斗	方よし	●	6.50	16.38	13.41	7.39
2日	金	つちのえとら	六白	初寅、小つち、三隣亡	福岡宮崎宮玉せせり、初卯、不成就日		十二	佛滅みつ	牛	きこ	●	6.51	16.39	14.26	8.45
3日	土	つちのとう	七赤	福岡宮崎宮玉せせり、初卯、不成就日			十三	大安たいら	女	●	●	6.51	16.40	15.15	9.38
4日	日	かえたとら	八白				十四	赤口さだん	虚	天おん	●	6.51	16.41	16.06	10.23
5日	月	かのと	九紫	望一三時五三分、 官庁御用始め、 初水天宮、初巳			十五	先勝とる	危	十し	●	6.51	16.41	16.06	11.02
6日	火	みづのえうま	一白	小寒一時二分、六日年越し、公現祭、 東京消防出初式、高崎だるま市、三隣亡			十六	友引とる	室	大みょう	●	6.51	16.42	17.54	12.07
7日	水	みづのひび	二黒	七草、人日、 福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ			十七	先負やぶる	壁	天おん	●	6.51	16.43	18.49	13.37
8日	木	きのえさる	三碧	東京鳥越神社とんど焼 初葉節、 学校始業、十方ぐれ入り			十八	佛滅あやぶ	奎	神よし	●	6.51	16.44	19.43	14.70
9日	金	きのと	四緑	宵えびす、京都西本願寺報恩講(16日迄)			十九	大安なる	婁	●	●	6.51	16.45	20.37	15.59
10日	土	ひのえいぬ	五黄	十日えびす、初金毘羅、一一〇番の日			廿	赤口おさん	胃	五む日	●	6.51	16.46	21.31	17.07
11日	日	ひのと	六白	鏡開き、歳開き、初亥、不成就日			廿一	先勝ひらく	昂	大みょう	●	6.51	16.48	22.24	18.43
12日	月	つちのえね	七赤	成人の日、初子、一粒万倍日			廿二	友引とる	畢	く辰日	●	6.51	16.49	23.19	19.20
13日	火	つちのとうし	八白	下弦一八時四六分			廿三	先負たつ	参	月とく	●	6.51	16.49	24.13	20.02
14日	水	かえとら	九紫	十四日年越し、大阪四天王寺どやどや、 仙台とんと祭			廿四	佛滅のぞく	参	月とく	●	6.50	16.49	25.07	20.53

冠婚葬祭とは、わが国古
来よりの礼法で、加冠、婚
葬、葬礼、祭祀の四つを略
していつたものである。曆
に即したものを中心にして、
そうでない一般的なものは
適宜に配置した。

冠(戴冠)これは、加冠(戴冠)
の儀という男子の元服を代
表にしたもので、人間が成
長し、人格が形成されてい
く段階において行う、数々
の儀式の総称である。

一月の冠婚は(成人式)
(二月第二月曜日)に極まる。
これは、法的に新しく社会
の一員に加わる満二十歳に
なった青年男女が、自覚し
てめでたく単立つことを祝
福する日として国民の祝日
となっている。

婚(婚姻)婚礼は、季節
にほとんど関係がなく、寒
中であれ暑中であれ、日柄
さえよければ挙式するなら
わしであるが、農家では比
較的ひまな一月に式を挙げ
ることが多い。

葬(葬)生者必滅、たとえ王

日	曜日	干支	九星	行事	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	木	かのと	一白	小正月、小豆がゆ、一粒万倍日			廿五	大安みつ	井		●	6.50	16.50	26.00	21.20
16日	金	みづのえとら	二黒	やぶ入り、賽日、えんま詣り、臘日、 真宗本派親鸞聖人忌			廿六	赤口たいら	鬼	大みょう	●	6.50	16.51	26.55	22.15
17日	土	みづのと	三碧	土用二〇時〇二分、防災とボランティアの日、 秋田太平山三吉神社梵天祭、天一天上			廿七	先勝さだん	柳	母倉	●	6.50	16.52	27.50	23.30
18日	日	きのえうま	四緑	初観音、三隣亡			廿八	友引とる	星	神よし	●	6.49	16.53	28.44	24.44
19日	月	きのと	五黄	不成就日			廿九	先負やぶる	張	大みょう	●	6.49	16.54	29.38	25.58
20日	火	ひのえさる	六白	大寒一八時四三分、 二十日正月	●	朔二二時一四分、 旧十一月大	朔	赤口あやぶ	翼	神よし	●	6.49	16.55	30.32	26.72
21日	水	ひのと	七赤	初大師			二	先勝なる	軫	●	●	6.48	16.56	31.26	27.46
22日	木	つちのえいぬ	八白	黙阿弥忌			三	友引おさん	角	ぶく日	●	6.48	16.57	32.20	28.60
23日	金	つちのと	九紫				四	先負ひらく	亢	ちう日	●	6.47	16.59	33.14	29.34
24日	土	かえ	一白	初地藏、東京築鴨とげぬき地藏尊大祭、 奈良若草山焼き、一粒万倍日			五	佛滅とつ	氏	月とく	●	6.47	17.00	34.08	30.08
25日	日	かのと	二黒	初天神、東京亀戸天神うそ替え、 法然上人忌、不成就日			六	大安たつ	房	十し	●	6.46	17.01	35.02	30.82
26日	月	みづのえとら	三碧	文化財防火デー、道元禪師誕生会、 天理教本部春季大祭			七	赤口のぞく	心	大みょう	●	6.46	17.02	35.96	31.56
27日	火	みづのと	四緑	上弦一三時四八分、国旗制定記念日、一粒万倍日、 小田原道了尊大祭、旧こと納め、旧針供養			八	先勝みつ	尾		●	6.45	17.03	36.90	32.30
28日	水	きのえとら	五黄	初不動			九	友引たいら	箕	大みょう	●	6.44	17.04	37.84	33.04
29日	木	きのと	六白				十	先負さだん	斗	大みょう	●	6.44	17.05	38.78	33.78
30日	金	ひのえうま	七赤	三隣亡			十一	佛滅とる	牛	神よし	●	6.43	17.06	39.72	34.52
31日	土	ひのと	八白				十二	大安やぶる	女	く辰日	●	6.42	17.07	40.66	35.26

者といえどもこれを避ける
る者はなく、そしてその命
の尽きるとき、季節を問うも
でないことはもちろんであ
る。従って葬儀そのものは
は、一月に大きな関係はな
い。この月七日までは式で
わゆる「松の内」は仏式で
は葬儀を差し控えるならわ
しである。

祭(暦)暦とは切つても切れ
ないのが祭祀、遠い祖先か
ら伝わった「お祭り」の年
中行事である。

年の初めの「元日」。一年
間の出発点として、数々の
風習が伝承されています。
初詣、年始回り、門松、鏡
餅、若水、屠蘇、雑煮、お
せち料理……等、地方によ
り家庭により、多少の差異
はあるが、ほとんどの人が
この日を祝う。

三日までを「三が日」とい
い、その間の二日は初詣、
初夢、書初め、仕事始め、
など縁起を祝う。

七日は「七日正月」とい
い、十五日は「小正月」と
して、それぞれの習慣によ
る祭事を行うが七日の「七
草がゆ」については、冬期
のビタミン補給だとする合
理的解釈もある。